



看護ケア推進たより 14号

2017年5月

ご報告

JCHO は看護師の特定行為研修を行う研修機関として指定されました!!

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）は、平成 29 年 3 月 29 日に厚生労働大臣が指定する「特定行為研修指定研修機関」に指定されました。

JCHO の使命は、地域医療、地域包括ケアの要として、地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えることにあります。その要となる人材を育成する柱の一つとして、この度、特定行為に係る看護師の研修を実施することになり、5 領域 10 区分の特定行為研修を実施します。JCHO の指定研修の特徴は、ジェネラリストを対象に放送大学修士課程とのコラボレーションで、2 年間で学習と実習を進めていくことです。

JCHO 大阪病院においては、4 領域 6 区分の特定行為研修を実施することになりました。平成 29 年度はすでに 2 名の受講生が研修を開始しています。指導体制も整っており、臨床研修医の指導医資格のある豊富な医師陣に加え、3 名の認定看護師が日本看護協会の特定行為研修を修了し、研修企画・指導に携わっています。JCHO 大阪病院では、地域医療の現場で患者の状態に合わせて、迅速な対応ができる看護師の育成を目指してまいります。

（看護部長 田中小百合）



大阪病院で実施する特定行為 5 領域

- 糖尿病看護
- 透析看護
- 感染看護
- 創傷ケア
- 在宅ケア

大阪病院で実施する特定行為 6 区分

- 栄養に係るカテーテル管理
（中心静脈カテーテル管理）関連
- 創傷管理関連
- 創部ドレーン管理関連
- 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- 感染に係る薬剤投与関連
- 血糖コントロールに係る薬剤投与関連



きらり ☆新人研修のご報告☆



看護部では、新人看護職員研修が努力義務化される以前の2002年から、根拠をもって看護実践できる看護師の育成を目指して新人看護職員「2ヶ月間ローテーション研修」を実施しています。

平成28年度採用者も、この研修を含め新人研修410時間を無事終了しました。

最終日の研修では、留置針による点滴静脈内注射の技術研修を行い、その後は一人ひとりが1年間の振り返りと2年目に向けての目標を発表しあいました。その後は、看護部長より修了証書を受け取り、皆笑顔でホッとした表情でした。4月からは2年目になり、後輩も入ってきます。気持ちを新たにさらに前進していきましょう。



(教育担当看護師長 村上博美)

当院の専門看護師 & 認定看護師ご紹介

【急性期グループ】

急性期グループには、感染管理・救急看護・小児救急看護・集中ケア・手術室看護の認定看護師がおり、それぞれが専門領域における看護の質を高めるために活動しています。皆さんが行っている日々の看護に少しでも役立てればと思っております。“どうしたらいいのかな？”と迷ったときにはお気軽にご連絡ください。

(中村明美)



	名前	専門・活動内容
感染管理	柴谷涼子 小井里香	患者様が安心して療養生活を送っていただけるよう感染対策の質向上と職員の健康管理を主な役割として活動しています。
救急看護	松山佳子	緊急度・重症度を見極めた院内トリアージの実施、急変時の看護や災害看護への取り組みを中心に活動しています。
小児救急看護	亀島こすえ	こどもとご家族様へ、療養上の支援とケア・養育上の支援・事故予防を中心に関わり、健やかな成長と発達を支援しています。
集中ケア	中村明美 澤井真理	重症度の高い患者様に対して、重症化を回避するための援助、早期から回復を支援するためのケアを行っています。
手術室看護	高橋良知	手術を受ける患者様の手術侵襲を最小減にし、多様化する手術が安全に実施できるよう活動しています。

【慢性期グループ】

慢性期グループはそれぞれの分野の実践を共有し、臨床現場における問題を検討して患者支援に活かしています。各分野の専門・認定看護師が自分の気が付かなかった視点に気づき、自分の活動を振り返りや次のケアに活かす学びの場となっています。また、地域医療推進活動の一つである「訪問します!!健康講座」の出張講座を実施しております。今年度も、福島区や此花区など近隣地域の住民の皆様や医療・介護従事者の皆様と一緒に慢性疾患の予防、健康づくりのお手伝いをさせていただきたいと思っております。今年度もよろしくお願いいたします。



(酒井圭子)

	名前	専門・活動内容
老人看護	伊坪 恵	高齢者や認知症の方の特性に配慮し、少しでも安心して治療を受け、療養できるよう支援しています。
皮膚・排泄ケア	清水加世子 中西由香 長谷川真紀	創傷、ストーマ、失禁ケア、フットケア、栄養サポート等、幅広く活動しています。
糖尿病看護	吉田多紀 前田結香	糖尿病の治療に必要な療養上の支援（フットケアや自己注射など）を行っています。
透析看護	酒井圭子	透析ケアの実践、シャント管理指導、腹膜透析ケア支援等
脳卒中リハビリテーション看護	田野岡文字	脳卒中を発症した患者様に対し急性期の重篤化回避に努め、生活再構築を目指し回復支援、再発予防指導を行っています。

【がんグループ】

がん看護グループでは、がんに関連する専門・認定看護師 5名が、毎週木曜日に集まり、ケアカンファレンスや各自の実践活動における問題についての検討や情報共有を行い、質の高い看護ケアの提供に向け努力しています。がん患者様が「がんと診断された時から身体的・精神的・社会的苦痛」に対して適切なサポートが受けられるよう、現場で看護ケアを実践されている皆さんと一緒にケアについて考えていきたいと思っております。「治療中心の時期」にも「緩和が中心になった時期」にもケアについてご相談ください。よろしくお願いいたします。(土岐昌世)



	名前	専門・活動内容
がん看護	仲森由香 高尾鮎美	がんの患者様の身体的・精神的な苦痛を理解し、患者様やご家族に対してQOL（生活の質）の視点に立った質の高い看護ケアの提供に向けて活動しています。
がん化学療法	土岐昌世	がん化学療法の安全な投与管理と患者様が安心して治療継続できるよう生活の質に視点をおいた支援を中心に行っています。
乳がん看護	今井康乃	乳がん患者様とご家族がその人らしい生活ができるように支援するとともに乳がん検診の啓発などを中心に活動しています。
がん性疼痛看護	大石愛	がんの痛みのある患者様・ご家族の心配な気持ちを和らげ、適切な薬物療法や看護ケアが提供できるよう活動しています。

「第 12 回 JCHO 大阪病院 ケア連携の会」開催報告



平成 28 年 2 月 14 日に「第 12 回ケア連携の会」を開催し、地域の 27 施設 44 名の方々と当院職員 33 名、計 77 名が参加しました。

病棟と訪問看護ステーションが介入した事例を元に、病院と地域との間で開催する機会が増えています。‘退院前合同カンファレンス’の調整や持ち方について「腎臓管理の必要な後期高齢者夫婦への支援～効果的な合同カンファレンスの持ち方について～」というテーマで事例検討を行いました。

地域の参加者からは「事前調整や顔の見える連携が大切、他職種の意見が聞けて良かった」と好評であり、また、これまでの様な病院と地域の連携だけでなく、地域の中の訪問看護師とケアマネジャーが意見交換することで、お互いの認識にズレがあることに気づく場にもなりました。

病棟看護師は、‘退院前合同カンファレンス’に視点をおいて事例をまとめて頂いたため「出来ていたことが充分伝わらなかった」と捉えていた点もありましたが、地域で暮らすためには早期からの連携が欠かせないことや、他職種の情報交換等について、多くの学びと今後への課題を見出していました。更に「腎臓」に関する質問は、医師より直接説明を頂き、「訪問看護指示書」に関して医師とケアマネジャーが意見交換することもでき、大変有意義な会となりました。



平成 28 年度「ケア連携の会」は、年 4 回開催し、病院発信の事例検討だけでなく、地域からの事例提供や医療・看護トピックスの情報提供など、新たな試みを実施しました。これからも、患者さんご家族が、住み慣れた我が家で暮らし続けるために、ますます会を発展させていきたいと思っております。
(一般診療外来 今井康乃)



事例検討予定
● 7月11日(火)
● 11月7日(火)
● 2月6日(火)

編集後記

平成 29 年度も、元気で活気ある活動を看護ケア推進だよりで掲載していきます。
今年度も宜しくお願い致します。
(看護ケア推進室 中西由香)